

学校だより 第14号

心豊かで 確かな学力をもち 心身ともに健やかな子どもの育成
令和8年9月25日 津市立榊原小学校

運動会に向けて みんなで整備中です



シルバーウィークが明け、2学期が始まり1か月が経とうとしています。10月3日（土）の運動会に向け、子どもたちの元気なかけ声が運動場から聞こえてきます。本番まであと1週間程となりました。気持ちを引き締めつつ、精いっぱい、笑顔いっぱいに頑張っている子どもたちです。

榊原幼稚園 園児さんとの交流

9月16日（水）

園からお誘いいただき、1・2年生が榊原幼稚園に向かいました。園の先生から「幼稚園のみんなで『おばけやしき』を作りました。（園児が扮する）お化けが出てきます。小学生のみなさんは、（たとえ怖くなくても）『わっ！』っていっぱい驚いてほしいな」とお願いを受け、ワクワクの表情です。お部屋の中では…「わっ！」とおばけが飛び出してきたり、にゅーっと手が出てきたり…、「出るかな？」と思うタイミングで出てこなくて、遅れて飛び出してきて大笑いになったりしました。そんなかわいいおばけに「わーっ！びっくりした！」と派手に驚く小学生。おばけのみんなも先生たちも、笑顔になっていました。その後は、少しおばけの体験もさせてもらいました。広いお部屋では園児さんといっしょにはしごを渡し、ケンケンで跳び、ハードルをテンポよく越えてサーキットで体を動かしていました。園児さんたちと手をつないで体の一部をくっつけたり、「お洗濯」の歌に合わせて、洗って、絞って、すすいで、乾かして…と動いたりして楽しんでいました。

絵本の読み聞かせを聞いていて、自然とお互い

の背中を「ごしごし しゅっしゅ！」と洗いっこする姿は、微笑ましかったです。園児さんは、小学生からたくさん刺激を受け、小学生は園での表現力豊かな活動に触れ、心から楽しむことができました。次は、運動会の練習を一緒にします。



地区学習会の様子から 9月16日（水）

湯の瀬見学（福祉の視点から）

5・6年生は、湯の瀬を訪問しました。「温泉には何度も行っている」子どもたちでしたが、「宿泊施設は初めて」という子もいて、和室・洋室がある宿泊の部屋や浴室を中心に見学させていただきました。

湯の瀬では会社をあげて「福祉」に力を入れてみえて、施設内はバリアフリーになり、介護が必



要な方もゆっくり温泉を楽しめる工夫がされていることを教えていただきました。車いすの使い方を教わった後に実際に車いすに座った時には、後ろから押されると思いのほか不安な気持ちになることや、段差があるところで車いすを持ち上げる体験から、相手が安心して身を任せられるような気遣いのある介助の仕方の難しさ等も実感していました。体の不自由な方もゆったりとお湯につかれるような温泉の設備に乗ったり動かしたりして、子どもたちどうしが声をかけ合い、気遣い合う優しさを感じられた体験学習でした。

次回の訪問では、職員として働く体験をさせていただきます。



下村教育集会所 訪問

前田 なをみ先生・中田 大先生のお話から

3・4年生は、1区にある下村教育集会所を訪れました。はじめに、前田先生から榊原には教育集会所が2つあり、それぞれの場所での活動によって様々な年代の方が利用して仲良くなっていることや、地域の方のあたたかさや榊原の町の人々の様子等について聞きました。クイズ形式でお話が出されたので、子どもたちも楽しんで考えていました。「榊原の自慢・すてきなところは？」との質問に、「自然がたくさんある」「温泉」



「『枕草子』で清少納言が榊原の温泉のことを書いている」「人が優しい」「動物がいっぱいいる」「地域の行事がたくさんある」「地域の方たちが声をかけてくれる」等と答えていました。榊原のすてきなところをもっともっと好きになって、良さを広めていってほしいです。

また、中田先生のお話の跡、ある街の様子が描かれた絵を見て「これって、人があたたかいな」「この場面、気になるよな」というところをグループで探して出しました。日常の中で気になることや誰かが困るようなことがあったときには、みんなで解決策を考えて、助け合いながら、だれもが安心して過ごせる町や学校を作っていきたいと心に刻んでいました。

不審者対応避難訓練

9月17日(木)

さすまた等で取り押さえようと…

職員室に逃げ込んで

「3階の3・4年教室に、急に見知らぬ人が入ってきて『子どもに会わせろ』と出ていこうとしない。下の階に降りてもらう誘導中の階段辺りでナイフを取り出した」という設定で避難訓練を行いました。この設定は、「3・4年生教室に不審者が侵入」という情報以外、



事前に学校(教員)には知らされていませんでした。子どもたちは、状況を見て判断し、放送や先生の指示をしっかりと聞いて、落ち着いて避難しました。職員は、非常放送システムで110番通報の第1報を入れる・不審者と対峙する・児童に寄り添い落ち着かせる・現場の状況を警察に通報する・到着した警察官を現場へ案内する等の役割を分担して対応しました。鍛え上げられた体の大きい不審者役の方に、職員は6人がかりで立ち向かい、非常に緊張感のある訓練でした。

2日前には教員が事前に警察の方から指導を受け、「さすまた」の使い方や「何か相手と対峙できる道具を持っていく」「凶器は1本とは限らない」等を教えていただきましたが、いざとなると落ち着いて対応する難しさを感じました。子どもたちにも「自分の命は自分で守る方法」を日ごろから考え、準備しておくことの大切さを感じてもらえたのではないかと思います。